

大藏省類

大藏省居

新潟税關所屬ノ蒸氣船ウイクトリヤ乎這回北越九
ト改称仕候此般上申候也

大藏

八金

日

手本

二月二十五日

章

大藏省同

別紙ノ通鹿兒島縣ヨリ蒸氣船御預被 仰付度願出
候右申立ノ趣無餘儀事情ニ相聞候ニ付貸渡候方可
然存候ヘ共舊藩ヨリ引揚候船々然テ蒸氣船會社ハ
拂下現今同縣ハ可貸渡船一艘モ無之尤外ニ見込ノ
船有之候ニ付買上ヲ以可相渡ノ處代價平極、儀未
タ決着ニ至リ兼追々委詳可甲上候ヘ共先以前斷賓
渡方大體ノ處分相伺候條早々御下命有之度候也

日 關

追テ本文同濟ノ上ハ航海ノ利分ヲ以船中諸費修
復等償方ノ方法取設候様同縣ハ可相達ト存候此

段併ケ申上候也

同之通二月二十五日

徳児島縣同大藏省宛

蒸氣船一艘

右ハ徳児島縣ノ儀數百里ノ端關相均是迄倭船ヲ以
航海為致候處毎年難破船ノ憂有之此未嘗元風旱ノ
災殃自然救助米別段不差下候テ島民共及飢居程ノ
年柄致到來候節和船ニテハ速モ急難救ノ方策無之
右近年縣下商人共蒸氣帆船等買備候ヘ共夫等ノ節
雇入候テハ殊ノ外高金相附是迄勘タ航海ノ和船順
季ノ以運用サヘ一ヶ年三四艘ノ災殃及破船實以致
心配當府大藏省御綜合ノ程如何ト奉存候ヘ共前件
ノ情實被聞召分右堅牢艦御繫留ノ内一艘御預ケ被

仰付度左候ヘハ島マ航海辨途且平常ニハ縣下ヨリ
東京表諸所ノ運用辨達取扱仕候ヘハ夫文ケ縣廳費
用ニ相省ケ雙方都合ノ事ニ付此往御綜合ノ以是非
當縣ヘ御預被仰付度奉願候也壬申十一月五日
當壬申歲大島外四島倭船航海破船

一圓行九 砂糖三十万五千斤余積入

一厚生丸

同 三十三万斤余積入

一凌洋丸

同 二万千斤余積入

一金山丸

同 二万千斤余積入

右ノ通破船數也

同伺 宛同上

當縣管内ノ儀ハ遠海ノ端島數多相抱因米ハ勿論砂
糖其外雜品等運漕ニ別テ因苦致シ候處ヨリ蒸氣船

一艘御預ヶ破 仰付度先達テ歎願仕置候依テハ此
未御許容於被 仰付ハ專テ航海運漕ノ利少ラ以諸
雜費相補ニ別段御下ケ金不及様旨法相立申度併往
年船器械等及ニ破損航海不相整節ハ形行御届申上
候間具節ハ御省ヨリ適宜ノ御所分ヲ以テ御修復召
加ハ被下候様此段更ニ奉願候也 壬申十一月廿八日

十一月廿四日

六年

前ニ鹿児島縣ニ貸付ス鹿児島丸修繕費用ヲ下付ス

大藏省上申

先般鹿児島縣申請ニ依テ同ノ上貸渡シ候蒸氣船万
里九改名鹿児島丸ノ儀修繕入費ノ儀別紙ノ通同縣
ヨリ申立候然ル處右船一旦同縣ハ相渡候上ノ破損
ニ候ハハ決シテ可下渡筋無之候ハ仄最前貸渡ノ節
既ニ致破損居候事故事實無餘儀次第ニ有之候間申
立ノ趣聞届別紙ノ通致指令候依之右書類并指令案
相添此段致上申候也 十一月廿四日

鹿児島縣ハ指令案

書面具縣申請ニ依テ相預ケ候蒸氣船鹿児島丸修繕
費ノ儀右船一旦其縣ハ相渡候上ハ難聞屆筋ニ候ハ

力政類典

足最前受渡ノ節破損所有之趣申立候次第ニ有之候
ニ付格別ノ詮議ヲ以テ此度限り開屆金四千九百十
七圓洋銀壹万六千六百四十八弗七十セント下渡候
條受取方可申出事

鹿児島縣願 大藏省免

當縣御預被 仰付候蒸氣船鹿兒島丸ノ儀痛損等ニ
テ航海難相整儀ニ付艦長有川矢九郎ヨリ別紙ノ通
願出修繕料ノ儀ハ可伺出旨兼テ御指令相成居候ニ
付願之通御採用被成下至急御下金有之度此段相願
候也 十一月十七日

鹿児島九艦長有川矢九郎願 鹿児島縣免

一金壹万六千六百四十八弗七十セント

石長崎製作所積

一金四千九百十七圓

右ヒール一切出来積

右ハ先般御預被 仰付候蒸氣船鹿兒島丸ノ儀元來
古艦ニテ諸所相損シ運輸試檢仕候處既ニ航海難相
整依テ於大阪海御引渡ノ節御斷申出候處大藏省ヨ
リ御指令ニ付是非相請候様大坂御出張驛遞寮本間
權少属殿ヨリ承知仕夫形相請取直ニ於兵港ニ自費
ヲ以テ修繕相加ハ鹿兒島海ニ乘下候處可也ノ修繕
ニテ當分航海難相整罷成於長崎ニ亦々修繕相加ハ
置候處兩度ノ入費三千圓餘ニ相及然ニ處此節ニ至
リ船底廻リ其外大半損所相見ハ速モ航海難相整罷
成候ニ付長崎於製作所ニ修繕見積為致候處積リ別
冊ノ通相及太粒ノ事件速モ微力ニ及承候ニ付修繕

料至急御下金被下度奉願候於其儀急速修繕相加へ
端島航海等ノ御用向精々勉勵仕度心修繕落成ノ上
ハ証書相添勘定書ヲ以別段御届申上候様仕度別冊
目論見書相添此段偏ニ奉願候也九月日闕

記

一洋銀一万四千四百十五弗四十セント

内譯

洋銀千百五十九弗五十セント 蒸氣機械修復并板

全四千六百十四弗四十セント 四ヶツキ張替并窓

カノンハロクニ本
スタシチヨニニ本

新規製作代

全六千三百七十二弗五十セント 水線以下コトヘ

ル張替松板損所

全四十弗 修替代

ラアリ一本
製造代

全百四十九弗

ツクロニヨツレニ
製造代

全二千八十弗

修船架損料
廿四分

ノ如高

右其御船修復代價如此候也

明治六年七月十五日 長崎製作所

鹿児島九御中

別紙其御船修復代價積書差進候間御落手有之度候
也

七月十五日

製作所

鹿児島九御中

大政數典

記

一洋銀二千十九弗五十セント

内

洋銀七百八十三弗九十セント ホイテン板新規取替代

全三百八十四弗十セント 諸塗具并塗職手間代

全八百五十一弗五十セント 鐵手摺新規製作代

右其船修復ニ付過剰差進申候積リノ内調落ニ相成
候間此修復ヶ所并代價先積書ノ内ヘ御加ヽ入有之
度候也

明治六年七月十五日 長崎製 作 所

麻児島丸御中

記

一洋銀二百十三弗八十セント

右ハ過剰申進候鐵手摺製作代ノ内調落シ箇條有之
候ニ付書面ノ金高增加致シ候間總高金ヘ御加ヽ入
有之度候也

明治六年七月十五日 長崎製 作 所

麻児島丸御中

記

綱具四ツ打

一六百九十三圓 至二寸二分二寸八分用 三 九
一百二十六圓 全至八分 百五十文
一百八十九圓 全至一寸二分 百五十文
一百六十八圓 全至一寸一分 百五十文
一百八十九圓 全至一寸 百七十文

一三 十 壱 圓 全至六分	百 大
一百二十六 圓 全至ニ寸	五 十 大
一二百二十四圓 全一寸八分	百二十 文
ローベントイフ	
三ツ打	
一四百三十壹圓 至七分	五百九十九文
一七 十 圓 全至六分	二百九十九文
一百六十八圓 全至一寸二分	百六十文
一四百四十圓 全至八分	四百八十八文
一三 十 五 圓 全至五分	百五十文
一七 十 圓 全至一寸一分	七十文
一百六十八圓 全至一寸	百八十文
一百〇八 圓 シキミシバレン	七十貫目

一七 十 二 圓 ヘンスル大中小	三十貫目
一三 十 壱 圓 マルレイン	廿五貫目
一十 五 圓 モイシング <small>モイシング至四分 ステンジーワンドエフレー子シ用 壱九</small>	
一三 十 壱 圓 モイシング <small>モイシング至四分 ステンジーワンドエフレー子シ用 壱九</small>	十五貫目
一三 十 圓 至五分ランドルワンドエフレー子シ用 二九	
一 ユーフルブロツコ大小	四十敷
右二口三百廿圓	二百敷
合計三千七百三十五圓	
右ハ別冊ノセールニ附属スル綱具及ブロツコ見積	
代價脚座候以上	
明治六年十一月 福井英昇 記	

一反十六圓替

一八 百 圓 セールヅツク 五 十 又

一四 十 圓 一寸一分至レーキ綱 五 十 文

一三十九圓五十錢 八分至レーキ綱 五十六丈五尺

一二十九圓五十錢 全七分至 四十八丈五尺

一九 圓 六分至 三十二丈五尺

一十 三 圓 セールハーレン 二 尺

一一 三 圓 レーキハーレン 二 尺

一二 十 圓 コウス大小 六 十 敷

一七 圓 スコード小一口シム金物 六 組

一十 六 圓 レフセーシンク 九十二丈五尺

一五 圓 密 蠟 六 斤

一百九十 圓 壱人五十錢宛セール仕立職三百八十人

合計千百八十二圓

右、別紙雄形ノ通セール一式仕立上見積御座候以上

明治六年十一月 福 井 英 昇

財務課議案

鹿児島縣寅渡ノ鹿児島九修繕入費ノ儀大藏省ヨリ
云々上申ノ趣情狀無餘儀相聞候ニ付御聞置相成可
然則別紙供高覽候也 十一月廿八日